

イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の高い地点が認められています。
水田でのヒメトビウンカの防除を行いましょう。

イネ縞葉枯病は、ヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病であり、多発するとイネが減ります。発病すると治療はできないため、ヒメトビウンカを対象とした防除が重要です。

令和6年5月24日付病害虫速報 No. 3において、水田におけるヒメトビウンカの防除適期が早まる見込みであることを発表しました。今回は、ヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス（以下、RSV）保毒虫率についてお知らせします。

[現在の状況]

本年5月に県西・県南地域の小麦圃場から採集したヒメトビウンカ第一世代幼虫のRSV保毒虫率は、12地点中3地点で5%以上の高い値となった（表）。

表 ヒメトビウンカ第一世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の年次推移

地域	調査地点	RSV保毒虫率（%） ¹⁾					
		令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	本年 ²⁾	
県西	古河市 水海	— ³⁾	3.7	5.3	2.7	1.1	
	結城市 結城	11.7	6.3	7.4	3.2	7.4	
	下妻市 高道祖	11.7	5.9	2.7	1.1	4.3	
	常総市 三坂町	9.0	5.9	3.2	1.1	3.7	
	筑西市 二木成	10.1	9.0	3.2	5.9	5.9	
	坂東市 神田山新田	—	5.3	1.1	—	2.7	
	桜川市	加茂部	7.4	5.3	5.3	5.9	4.3
		原方	3.7	7.4	2.1	4.8	3.7
	八千代町	高崎	14.4	8.5	6.4	5.3	13.8
	県南	つくば市	大形	5.3	5.9	3.7	3.2
杉木			—	—	5.9	1.6	3.7
つくばみらい市		市野深	5.3	6.9	1.6	5.3	3.2

1)簡易ELISA法により検定した。

2)採集日：令和6年5月10、14、15、16、17、21日、検定実施日：5月27日。

サンプル数：各地点188頭。

3) —：未調査

[防除対策]

- ① ヒメトビウンカに対する防除適期が早まる見込みのため、本田防除を行う場合は、前ページ防除所レポートを参考にして、防除適期をよく確認する。
- ② イネ縞葉枯病の発生地域で、近年、育苗箱施用剤を使用してもなお本病の発生が多かった水田や、本年育苗箱施用剤を使用しなかった水田等では、ヒメトビウンカを対象とする本田防除を行う。
- ③ 無人航空機や乗用管理機等による本田散布を行うことができない場合は、投げ込み型の殺虫剤による本田防除を行う。
- ④ 育苗箱施用と本田散布の体系防除を行う場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードの異なる薬剤を選択する。
- ⑤ イネ縞葉枯病抵抗性品種を作付けしている水田であっても、ヒメトビウンカの増殖場所となるため、本病の多発生地域では防除を行う。